

2022年1月 旅行取扱高状況報告

< 旅行区分別 >

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比	2019年同月取扱高	2019年同月比
海外旅行	583,253	272,945	213.7%	28,269,611	2.1%
国内旅行	2,235,917	684,427	326.7%	3,787,379	59.0%
訪日旅行	5,316	3,474	153.0%	2,828,720	0.2%
合 計	2,824,486	960,846	294.0%	34,885,710	8.1%

上記、月次取扱高は、エイチ・アイ・エス及び同グループ 5 社（オリオンツアー、クオリタ、クルーズプラネット、ジャパンホリデートラベル、エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した取扱高の合計となります。また、コロナ前と比較をするため、前々年比を基準に記載しております。

1. 海外旅行

引き続き、全方面における企画旅行の催行を中止する中、世界各国では新型コロナウイルスの感染力が高い変異株「オミクロン株」による感染が拡大しており、レジャー需要の回復には至っておりません。

以上の結果、海外旅行の総取扱高は、2019年同月比 2.1%の 5 億 8,325 万円となりました。

2. 国内旅行

年末年始の旅行者数は、前年と比べ高い伸びを示したものの、国内におけるオミクロン株の急速な感染拡大に伴い、1月9日より広島県・山口県及び沖縄県の区域に「まん延防止等重点措置」が実施され、その区域が拡大していったことにより、旅行需要の鈍化がみられました。しかしながら、昨年 1 月においては、緊急事態宣言下であり、ワクチン接種が開始されていなかった環境と、今年 1 月の状況と比較すると、急激な旅行需要の低下には至っていません。渡航先の変更や出発日の変更など、旅行予約は継続的に動いております。

1 月出発の人気渡航先としては、北海道・九州方面の伸びが顕著であり、特に九州方面では、冬のイルミネーションが人気のハウステンボスへのツアーが好調に推移いたしました。また、近場のバスツアーや鉄道利用ツアーにおいても高い伸びを示しており、旅行者数の積み上げに寄与しています。

以上の結果、国内旅行の総取扱高は、前年同月比 326.7%、2019年同月比 59.0%の 22 億 3,591 万円となりました。

3. 訪日旅行

世界各国におけるオミクロン株のまん延に伴い、外国人新規入国の原則停止が継続されていることにより、訪日旅行の総取扱高は、2019年同月比 0.2%の 531 万円となりました。

以上の結果、2022年1月の旅行取扱高の総計は、前年同月比 294.0%、2019年同月比 8.1%の 28 億 2,448 万円となりました。

以上

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス I R室：050-1746-4188
 広報室：050-1746-4177